

地域に飛び出す市民国際プラザ！

『市民国際プラザ』では、国際協力や多文化共生に関する自治体、地域国際化協会、NGO/NPO等の相談に対応しています。更に、各地の先進的な活動取材し、本ダイジェストでご紹介しています。

(特活)多文化共生リソースセンター東海 愛知県名古屋市

◆日本で数少ない多文化共生分野の中間支援組織として、東海地方の枠を超えて貢献

2008年に設立された多文化共生分野の中間支援組織である多文化共生リソースセンター東海。代表理事の土井佳彦さんにお話を伺いました。同センターの設立までには1年間の丁寧な議論がありました。2007年NPO法人起業支援ネット主催で東海地域の多文化共生社会づくりに向けて「在住外国人支援事業の発展継続を考える懇談会」が開かれます。専門が日本語教育、地域日本語教室等でボランティアとしても活動していた土井さん、懇談会に声がかかり第1回から参加します。「ボランティアの善意に頼るだけでは持続可能な活動ができない。もし10年後も同じ状況が続いていたら一体どうなるのか？」と、ギリギリの状態に活動する支援団体の存続に強い危機感を持っていたからです。また、懇談会には様々な分野で活躍する年代の若者が多数参加しており、彼女らから学びたい気持ちもありました。



設立5周年記念の様子

2008年2月、懇談会参加者有志によって、“支援が届いていないところと支援をしたいところをつなぐ存在”として、「多文化共生社会を目指す中間支援組織」の設立準備会が発足されます。20回に渡る準備会を経て同年10月遂に「多文化共生リソースセンター東海」が設立されます。代表には土井さんが抜擢されました。周囲の先輩NPOからは、「多文化共生」という分野の「中間支援組織」は資金調達が非常に難しく、ボランティアで行うか、行政の委託を受けるかの二択であると指摘されたそうです。当時、大学職員としてフルタイムで働きながら、夜間や週末での活動をスタートしましたが、2011年に起きた東日本大震災での支援活動を境に、片手間ではやっては社会を変えられないと思い、翌年に退職してNPOの専従職員になることを決意されました。同時に、経営者として外国人の雇用やスタッフの産休育休に伴う働き方改革にも取り組み、職場のダイバーシティやワークライフバランスを実践し続けています。また中間支援組織としては、とすると行政や営利企業に低価格で「使われてしまいがち」な非営利団体の社会的存在価値の重要性や専門性の高さを認識してもらうため、意識啓発やアドボカシー等も行っています。14年前丁寧な議論の基にスタートした活動は困難もありながらも華開き、東海地方の多文化共生に大きく貢献しています。更には、2018年度からはNPO法人多文化共生マネージャー全国協議会（大阪市）の代表理事も務めるなど、東海地方の枠組みを超えて全国的な多文化共生推進にも貢献する存在となっています。また、土井さんは、「有給職員を抱える多文化共生分野のNPOの運営が軌道に乗るには、10年かかるという気持ちで連携・協働のあり方を考えてほしい」と言います。単発的な委託事業や助成金頼みでの自転車操業では、自治体とNPOの双方にとって信頼関係を築くのが難しい。営利企業と違って地域に密着して活動するNPOは、金の切れ目を縁の切れ目にするのも心苦しい。どんな社会課題の解決においても、官民連携の重要性が高まる近年において、地域で芽生えたNPOを大切に育てることも自治体の大きな役割だと言えます。

日本で数少ない多文化共生分野の中間支援組織として活躍する多文化共生リソースセンター東海とその代表である土井さんにはこれからも大きな期待がかかります。彼らの挑戦にご注目ください。

多文化共生リソースセンター東海 ウェブサイト：<http://mrc-t.blogspot.com/>

団体活動紹介動画：<https://www.youtube.com/watch?v=JgHTE2n3ABI>



～市民国際プラザを広く皆様に知っていただくために～

市民国際プラザのFacebookに「いいね！」をお願いします！



地域に飛び出す市民国際プラザ！

『市民国際プラザ』では、国際協力や多文化共生に関する自治体、地域国際化協会、NGO/NPO等の相談に対応しています。更に、各地の先進的な活動を取材し、本ダイジェストでご紹介しています。

(特活) 多文化共生マネージャー全国協議会 大阪府大阪市

◆ 始まりは多文化「DMAT」構想から ～災害時にいち早く駆けつけるコーディネーター集団へ～

多文化共生マネージャー全国協議会(NPOタブマネ)の副理事長、高木和彦さんにお話を伺いました。NPOタブマネはクリアが認定する「多文化共生マネージャー」(通称タブマネ)を中心に2009年に設立されました。きっかけは2007年の新潟中越沖地震。被災地柏崎市に、新潟県が被災外国人への支援の拠点「柏崎多言語支援センター」を設置しました。柏崎市、(公財)柏崎地域国際化協会(KISNET)と各地からの有志による支援活動が行われました。立ち上げに関わった多文化共生センター大阪の代表理事の田村太郎氏(当時)がタブマネ養成コースの講師であったこと、センター運営の中心的役割のKISNET事務局長の清水由美子氏(当時)が前年度にタブマネ研修を受講していたことから協力が呼びかけられました。それに応えて多くのタブマネが柏崎市に入り支援センターに参加します。



2016年熊本地震支援に入った高木さん(右)

活動の振り返りで清水氏より「多文化DMATの必要性、全国ネットワークの必要性、災害時に活躍できる人材育成」の提言、JIAM学長の大野慎一氏(当時)より「多文化共生マネージャーの組織的活動の必要性、全国の市町村等との協定の必要性、防災訓練等の実践」が提言されNPOタブマネ設立につながりました。主な活動は、災害発生時における現地活動団体の支援、多文化共生の推進や災害時の外国人支援に係る研修や講演会等への講師の派遣や委託事業等の受託、タブマネのネットワーク化の推進、多文化共生に関する活動を行う団体等とのネットワーク化の推進です。

設立時130名程度だったタブマネも現在636名。研修を受講した時期を超えた縦のつながりを深めるためのグループメールやタブマネ同士が自主的に行う勉強会に対する助成、タブマネの取材助成などネットワーク化促進を目的とした事業も展開しています。コロナ禍でオンラインのタブマネサロンも開始しました。特徴は、団体内に専従者がおらず、理事・事務員全てが別に本業を持ちながら自分に関与できる度合いに応じて活動を支えているところです。

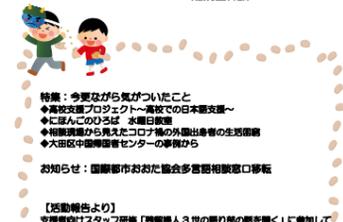
NPOタブマネへの期待が年々高まっていると感じると高木さん。これまで様々な地域で研修会や講演会に出向き、多文化共生に取り組む団体・個人が着実に増えてきていると感じる一方で、地域偏も見られ、進んでいる地域とそうでない地域の差が拡大しているようにも感じているそうです。また、自治体職員の方も多いタブマネですが、彼らが災害時に多言語支援センターに参加する場合、本務を休みボランティアとしての参加となり保障が無いという課題もあるそうです。「一団体として、できることは限られるが、これまでの活動を通じて“つながり”ができていく地域とは連絡を取り合うことにより、引き続き連携を深めながら、その地域の多文化共生が少しでも進むようお手伝いをしていきたい。また、これまであまり“つながり”ができていない地域にも積極的にアプローチを行いながら、日本全国津々浦々で多文化共生が進むよう取り組んでいきたい」と熱く語る姿がとても印象的でした。日本各地の多文化共生推進において、タブマネ、そしてNPOタブマネの活躍がますます期待されます。

多文化共生マネージャー全国協議会ウェブサイト <https://www.npotabumane.com/>

(一社)OCNet 東京都大田区

◆ 市民が力を発揮して、行政と連携しながら地域の外国人との共生を図るOCNetとレガートおおた

理事の葵佐代子さんにお話を伺いました。OCNetは今から30年前の1992年、大田区で「言語や文化、習慣などさまざまに異なる人たちと、普段の暮らしの中で交流できる場をつくり出し、広げていくこと」を目的に設立されました。外国人相談、日本語教室の他2009年からは区の委託を受けて大田区中国帰国者センターも運営しています。活動の転換点の一つは2010年。かつて区が直営していた国際交流事業を、地域の住民と共に行う方針が打ち出されました。そこで、OCNetをはじめ地域で長く活動してきた国際交流団体、日本語教室等が集まり「レガートおおた」を設立し、各団体から個人がメンバーとして入会する仕組みとしました。以降「レガートおおた」が区からの事業の受け皿になり多言語相談窓口等を行っています。2019年には「国際都市おおた協会」が設立され、おおた協会との連携に移行しました。相談は年間2000件ののぼり、相談者が絶えることがありません。主に外国人の方々の口コミの力で浸透しているそうです。相談窓口は相談者からの信頼があってこそ利用されるのだということを改めて考えさせられます。



- ◆ 今更ながら気づいたこと
- ◆ 国際交流プロジェクト〜高校での日本語交流〜
- ◆ 今年もこの日は 水曜日開催
- ◆ 相談窓口から見えたコロナ後の外国出身者の生活困難
- ◆ 大田区中国帰国者センターの事例から

お知らせ：国際都市おおた協会多言語相談窓口専版

【活動報告より】
交際費がスタッフ研修「外国人3世の暮らしの姿を聞く」に参加して

一番の課題は相談員の後継人材を育成することだとのこと。行政とのよりよい連携の在り方を模索しつつ持続可能な体制づくりを検討中です。OCNet: <http://www.ocnet.jp/> レガートおおた: <http://www.legatoota.jp/index.html>



～ 市民国際プラザを広く皆様に知っていただくために～

市民国際プラザのFacebookに「いいね！」をお願いします！

